

奥方玉の井 太郎冠者 山蔭右京

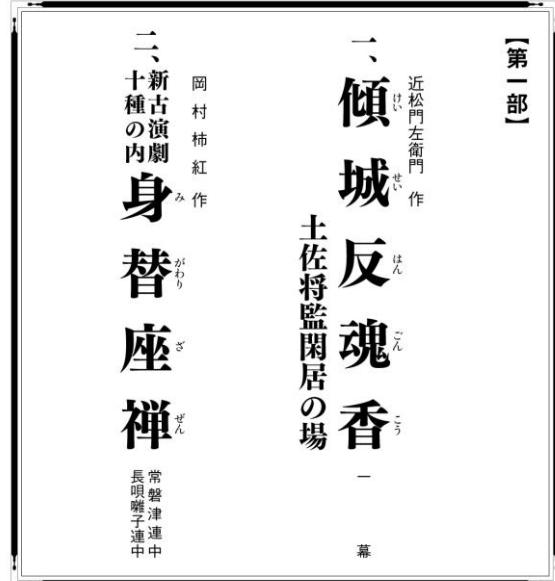
❖身替座禅

狩野雅樂之助 土佐修理之助 女房おとく 浮世又平
土佐将監光信 土佐修理之助 女房おとく 平起平

❖傾城反魂香

第一部

坂坂尾 坂嵐市坂坂
東東上 東川東東
亀巳松 亀橋男新巳
之 三 之
藏助縁 藏郎寅悟助



第一部

『傾城反魂香 土佐将監閑居の場』 (けいせいはんごんこう とさしょうげんかんきよのは)

山科の里にある絵師の土佐将監の館にやって来たのは、弟子の浮世又平と女房おとく。生来言葉が不自由な又平に代わり、口達者な女房おとくが土佐の名字を授かりたいと将監に申し出ますが、絵の道で功を立てない上には難しいと、その願いは却下されました。弟子の土佐修理之助にも先を越されてしまい、絶望した夫婦は死を決意します。又平は、今生の名残にと庭先の手水鉢に自画像を描きますが……。

近松門左衛門の義太夫狂言の名作で、実直な又平と夫をかいがいしく支える女房おとく、この夫婦の絆と命を懸けて起こした奇跡が胸を打ちます。夫婦の深い情愛を描いた心温まる物語をご堪能ください。

『身替座禅』 (みがわりざぜん)

大名の山蔭右京は、大の恐妻家でありながら浮気性。愛人の花子が都へやって来たことを知り、なんとか会いたいと願いますが、奥方玉の井が外出を許しません。そこで右京は、邸内の持仏堂に一晩中籠って座禅をすると嘘をつき、家来の太郎冠者に座禅衾を被せて自身の身替りにし、花子のもとへ向かいますが……。

狂言の大曲「花子」をもとにした舞踊劇。花子と一夜の逢瀬を叶え、ほろ酔い加減で帰ってきた右京が、自身と花子を踊り分けながらその様子を物語る場面はみどころの一つです。怒りに打ち震える玉の井と、それに気づかず浮かれた様子の右京の対比が、ユーモアも交えて描かれます。松羽目物に相応しい格調と品格のなかに、可笑しみが溢れる舞台をお楽しみください。